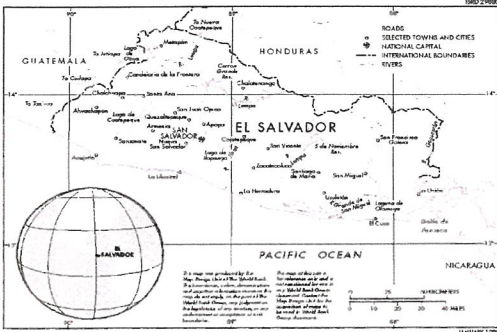


Report on "El Salvador"

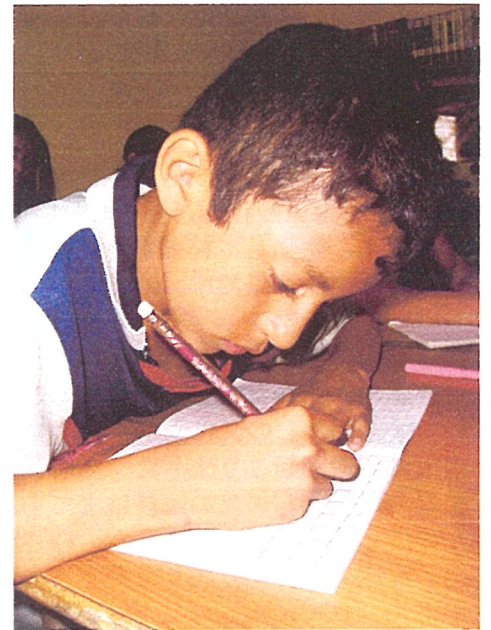


—エルサルバドルからの声—

■2007 年 8 月にイタリアで行われた Tonalestate (国際文化平和フォーラム)にて、現地エルサルバドルのカウンターパート FUNDIPRO (見捨てられた児童のための援助協力会)のスタッフとその協力者の学生たちに、日本人の大学生がインタビューしました。

Q1.保育所に通う子どもたちはどんな所から通って来ますか？

■子どもたちの住んでいる地区は首都サンサルバドルの中でも最も危険な場所です。その地域にはギャングが多く住み、ほとんどの人がそのギャング組織に属しています。ですから、普通の人はその場所に簡単に近寄ろうとしません。しかし、わたしたちは人々から距離を置かれた家族や子どもたちとの関係を築くことも大切と考えています。困ったことがあれば、一番に相談しに来てくれるような関係になりたいと希望しています。皆さん、エルサルバドルを日本と同じように考えないでください。この国は本当に貧しいです。常に暴力が身近に存在し、人々は危険にさらされています。しかし、もっと悲惨なことは、貧しさの中に生まれ、貧しさと生き、そしてその一生を過ごすという運命です。学校も義務教育だからといって行けるとは限りません。親ですら行っていないのですから、なおさら子どもはお金を稼ぐ為の道具として使ってしまいます。毎日生きるための水、食糧があるかと心配し、子どもたちはそのような中に生きています。



(字の練習の様子)

Q2.保育所では子どもたちを送り迎えしているそうですね。

■わたしたちが毎日送り迎えをするのは、その家族の状況を知る機会でもあり、直接親と話しながら子育てのアドバイスなどができるからです。そして、遊びや勉強がしたくても、親の否定的な態度や暴力によって遊ぶことを我慢している子どもたちはわたしたちが迎えに来ることを待っているからです。あるエピソードですが、お祭り日、子どもがチョコを落としたことで母親がヒステリックになり子どもを叩いてしまい、その子どもはパニックになりました。そんな中、迎えに行ったスタッフはその母親と話す時間を持ち、なんとか子どもをお祭りに連れていくことができました。そしてお祭



(保育所で母の日のお祝いをした様子)

りが終わり家に送り届けると、喜んで幸せそうに帰ってくる子どもを見て、母親は反省した様子で「あなたたちのように、わたしも子どもを大切にしたい」と言ってくれたことがあります。貧しさの中で毎日の生活や仕事に追われ、親たちも疲れ、苦しんでいます。子どもたちに目を向ける余裕が少しずつ減ってしまうのでしょうか。子どもたちにとって、保育所は安心して遊べる場所であり、子どもと子どもとが心から交流できる場所として大切な場です。そして、親子関係が本来の愛情に包まれるよう送り迎えをしながら、わたしたちは日々努力しています。

(次号に続く)

取材：The Others

TONALESTATE 2007

テーマ：『人間と悪』

■今年もイタリアのパッソデルトナーレ（トレンティーノ・アルト州ブレンシア県）でトナーレスターテ国際文化平和フォーラム（8月4ー7日）が開催され、世界のさまざまな紛争地で平和のために働く人々の経験を聞きました。以下はイラク・バグダッドから参加されたサード神父様の話の抜粋です。（サード・ハンナ神父：イタリアのグレゴリアナ大学で哲学・神学の博士課程に在籍しながら母国イラクに戻り、現在バグダッドにあるカトリック教会の司祭を務めています。2006年に武装集団に拉致監禁された経験を持ち、トナーレスターテでは現在のイラクの人々の苦しみと彼らの希望を代弁されました。）

「わたしはサード・ハンナと言います。イラク人です。2003年にここに参加をしたのが初めてで今回は2回目になります。ローマで博士課程の勉強をしていて今はその途中です。神学と哲学を勉強しています。また、バグダッドのカトリック教会の主任司祭です。わたしが皆さんを知ったのは、グレゴリアナ大学の学生であるニコラとジュリアに出会ったからです。毎年、レッジョ・エミリアの仲間たちに会いに行きます。あなた方と一緒にいることができて本当に嬉しいです。わたしの父は南トルコ人です。1914年、アルメニア人の虐殺が起きました。当時、アッシリア人も殺されました。わたしの父の家族はとても金持ちで身分も高かったのですが、皆殺されました。残されたのは祖父だけでした。財産も多くありましたが全て失いました。ただ、祖父の財産としてわたしの父だけが残されました。わたしの父はキリスト教徒ですが、イスラム教徒であるトルコ人について悪口を言ったことはありませんでした。父は「あいつらを憎め」と言ったことはありません。「あいつらはわたしたちの家族を虐殺したから憎め」と言ったことはありません。むしろ、父はトルコ人と友だちになりました。一生懸命彼らを愛そうとしました。父から教えてもらったこの論理は一番大事なことだと思います。悪に悪で応えてはいけないという論理です。言葉、行い、考え、そしてあるプロジェクトによってわたしたちは悪に余裕を与えてしまいます。わたしたちはその余裕を与えてはいけません。」

(Saad Hanna)



講演会後のサード神父と日本人学生



あなたは星の涙に濁ったこの一つの原子を濡らす。

「わたしは生きるが如く悪によく出会った。

川の流れは石と石との狭い間を走り、

川は嘆く。川でさえも苦しむ。

枯れゆく葉の苦しみ、

重労働がゆえに死んだ馬の苦しみ、

わたしはわからない。命に意味があるのか。

おそらく一つだけ良い方法があるだろう。

それは全てに無関心であることだ。

夏の暑さに眠る像のように、

流れゆく雲、空高く飛びさるトンビ。」

エウジェニオ・モンターレ

* 今年のポスターに記載された詩



■日本からは6月にオリーブジャパン文化講演会でお話くださった原田正治氏がパネリストとして参加し、『弟を殺した彼と僕』というテーマで死刑反対を命の重みの視点から訴えられました。

フィナーレにて（右から三人目が原田正治氏）

オリーブジャパン講座紹介

イタリア料理講座

■毎月第一第4日曜日 17時より

■月1回講座：月額6000円（材料込み）

この講座は、簡単に手に入る食材を使って、南イタリアのお母さんの家庭料理を勉強します。レシピはアグロポリ（イタリア、カンパーニア州サレルノ県）のお料理が得意なお母さんたちからの直伝です。本には載っていない本格派・毎日食べても飽きない・手早く作れる・おいしいと、一石四鳥のレッスンです。

講師：美代子・デ・マルコ
（アグロポリ家庭料理研究会）



◆参加生徒の方から一言◆

簡単で家庭でもすぐに役立つレシピが学べるので自宅に帰ってすぐに作りたくなります。和気あいあいとして楽しい教室なので、料理の失敗談や成功の秘訣などをお互いにアドバイスしあっています。先日はリモンチェッロ（レモンの皮から作られる地酒）をつけるときに瓶の蓋にカスが固まるのはなぜか？と話しが飛び出し、ある方がこし器で数回しっかりこすと大丈夫と教えてくれました。他の生徒さんは教室で習ったリモンチェッロを自宅で作り、それを飲ませてくれました。イタリア人もお墨付きの出来映えで、綺麗に透き通った鮮やかな黄色と檸檬の味がしっかりする味は絶品でした。

（参加生徒：松浦美規子）

アグロポリ市は州都ナポリから南に150kmに位置し、エメラルド色に輝く海の街アグロポリは古代遺跡が多く残る地域です。アグロポリの家庭料理と食文化、歴史を学びます！

オリーブジャパン特別文化講座

アグロポリ家庭料理研究会8周年記念特別企画

南イタリアの食文化に触れてみませんか？



・・・日程：2008年2月25日(月)～3月4日(火)・・・

◆アグロポリ家庭料理研究会の8周年を記念して、オリーブジャパン国際開発協力協会とアグロポリのNPOサルパレ(salpare:出港するの意)協力によって行われます。アグロポリ家庭料理研究会の柴田淑美と美代子・デ・マルコがコーディネーターとして皆様のお世話をさせていただきますが、旅行の責任は旅行にご参加くださるお一人お一人にあります。また、この旅行は皆様に南イタリアの食文化に触れていただくとともに、オリーブジャパンの支援事業（中南米の貧困に苦しむ若者の教育支援）に参加することを目的としています。

問い合わせ

052-936-2557
（柴田）アグロポリ
家庭料理研究会主宰
052-771-8829
（榊原・益田）オリーブジャパン
国際開発協力協会

その他文化講座

■洋画講座■

この講座では、パステル、油絵、水彩などいろいろな道具、材料を使いながら好きな物を自由に描きます。ただ物をそのまま写したり、上手に描いたりすることではなく、自分の中にある何かを表現することを大切にしながら絵画の楽しさを学びます。

◆第3・4土曜PM5:00- 月額4000円

■フラワーアレンジメント■

お部屋の中に、季節の花を飾りましょう。決まったスタイルではなく、同じ花材を使いながらもそれぞれの個性を生かしたユニークな指導です。生花のアレンジ、コサージュ、押し花など、また季節に合わせてクリスマスリースや正月飾りなどを楽しくおしゃべりを交えて学びます。

◆第1月曜PM7:00- 花材込2500円

■イタリア語講座■

経験、個性豊かな先生による楽しいイタリア語教室。この教室の特徴は、言葉だけではなく、生きているイタリアの文化を学べます！講師は16年間イタリアで建築家として活躍した篠田先生と、現在通訳第一人者の柴田先生。愛知万博イタリアパビリオンでは副館長と儀典を担当した二人。

◆第1・3火曜PM7:00- 月額6000円

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける会員の方を随時募集しています。

- ・ 賛助会員 (一ヶ月一口 10,000 円)
- ・ 正会員 (一ヶ月一口 5,000 円)
- ・ 協力会員 (一ヶ月一口 2,000 円)
- ・ 参加会員 (一ヶ月一口 1,000 円)
- ・ 同調会員 (一ヶ月一口 500 円)

「郵便振込用紙」に必要事項と会員の種類、納入方法 (月払い／年一括) をご記入の上、会費を納入ください。

振替口座番号

00890-1-24582

会員の皆様には、会報「オリーブ・プレス」と講演会、バザー等のご案内を優先的にさせていただきます。



オリーブジャパン国際開発協力協会にご支援いただきまして有難うございます。皆さまからのご寄付は、エルサルバドルのカウンターパート FUNDIPRO を通して、医療巡回、保育所で活かされています。オリーブ・プレスの紙面にて、現地の活動報告をさせていただきます。今後とも皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

事務局スタッフ一同

海外での働き

◆エルサルバドル (サンサルバドル)

エルサルバドル事務所

FUNDIPRO (見捨てられた児童のための援助協力)

《事業内容》

- ・ 文化教育センター設立 (1994 年 2 月)
- ・ 貧困に苦しむ女性のための自立支援事業洋裁講座
- ・ 貧困に苦しむ若者のための Domus「安定した家」開設
- ・ 児童センター「みつばち保育所」運営
- ・ 運営協力、ボランティア派遣による支援活動
- ・ エルサルバドル地震 被災民の子どものための教育施設運営

◆メキシコ合衆国 (メキシコシティ)

メキシコ事務所

I.C.T.E (Instituto Cientifico Tecnico Educativo)

メキシコ技術短期大学

《事業内容》

- ・ I.C.T.E 技術専科短期大学設立 (1993 年 9 月)
- ・ 教育者育成のための講座開講
- ・ 就学困難な学生のための奨学金制度実施
- ・ 外国人のための留学制度 (スペイン語コース・インテリアデザインコース) 実施
- ・ 日本からのホームステイプログラム

◆ホンデュラス

《事業内容》

- ・ 未婚の母のためのセンター開始
- ・ 災害被災民の子どものための教育施設「太陽の小さな学校」運営
- ・ ボランティア派遣

◆その他

ベネズエラ

《事業内容》

- ・ エルコロソ農業学校への施設整備支援
- ・ ボランティア派遣

***お問い合わせは、下記連絡先まで。**

年 4 回発行 「オリーブ・プレス」 Vol.8 2007 年 11 月 20 日 (火) 発行
発行 オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com